

「日中植林・植樹国際連帯事業」
ネパール青少年招へい事業（大学院生）
訪問日程 2017年1月16日（月）～1月23日（月）

1. プログラム概要

1月16日から23日まで、日中植林・植樹国際連帯事業の一環として、ネパールの大学院生等19名が訪日しました。

ネパール青少年招へい事業は、2015年に大地震を経験したネパールから、被災した学生及び防災関連分野を専攻している学生を招へいし、環境・防災意識の啓発を図るとともに、両国交流の記念として植樹を行うことを目的とした事業です。

一行は、東京都および宮城県で、防災や復興支援に取り組む関係機関の講義を受講しました。また、宮城県石巻市では、東日本大震災の被災地を語り部とともに巡りながら、震災当時の状況や復興の過程、被災者の思いについて理解を深めました。

2. 日程

別添のとおり

3. 写真



1月16日 オリエンテーション



1月17日 内閣府
講義「高リスク自然災害への対処」



1月17日 東京大学
講義「防災アプリ開発について」



1月18日 NGO まちコミュニケーション
講義「阪神大震災から学ぶ」



1月18日 東京都総務局総合防災部
講義「地域防災計画に基づく震災復興全般」



1月19日 外務省
講義「3.11震災後の首相官邸でのグローバル
コミュニケーション活動」



1月20日 宮城県国際経済・交流課
講義「被災者生活再建支援への取り組み」



1月20日 みやぎ心のケアセンター
講義「震災に起因する健康問題等」



1月21日 石巻市の語り部ガイドによる
東日本大震災被災地視察



1月22日 植樹



1月22日 報告会



1月23日 茶道体験

4. 参加者の感想（抜粋）

（1）

今回の訪問では、家庭から国家レベルまで災害に対する備えの水準がとても印象的でした。日本社会では文化や日々の暮らしにおいて災害に備える意識が高く、そのことが災害からの迅速な復興を可能にし、強い回復力をもたらしてくれています。私はそのことを自分の家族や友達、また所属先で伝えます。生活の一部として災害を意識し、備えることで、ネパールの地域社会は災害に強くなり、正常な状態に立ち直る力となります。

日本がもつ復興のための技術や取り組み方は、ネパールや他の国々に共有され、実行するだけの価値を持っています。岩沼市の“千年希望の丘”は、防災と復興計画について模範的なプロジェクトの一つです。そのプロジェクトは、災害の影響を軽減してくれる自然の重要性を強く訴え、災害から出る瓦礫を活用するという革新的なアイデアを提供してくれます。

ある石巻市の小さなコミュニティでは、災害がもたらした悪い評判を消そうと頑張っています。それは郷土愛や共同体に対する責任感のように思えます。

先見性のある長期の復興計画と実施段階は、他の国々も学ぶ価値があります。計画にあたって、特に自然の保護に留意することは、今日の世界でとても重要です。

これらのことを、家族や友達、職場の同僚たちに伝えていきたいと思えます。

（2）

私がつまみ感銘を受けたのは、災害への備えが日本社会に組み込まれていることでした。政府から地域社会、そして家庭レベルまで、いずれの人々も何らかの備えをしています。たとえば、一般家庭では自宅に災害保険をかけ少なくとも3日持ちこたえられる食糧を備蓄していたり、道路に面した大きな建物では帰宅困難になった人たちのために食糧や他の物品を保管していたり、政府機関は災害が与える影響に対してすぐに行動を起こせるようアクションプランが作られていました。これらの面は教育の賜物で、ネパールの人々に伝えたいです。

（3）

日本は災害が発生しやすい国の一つであり、災害対策のために貴重な知識や経験を取り入れるためにも、今後起こりうる災害から身を守る計画を立てるためにも、ネパールには一番良い例となります。

日本滞在中で非常に印象的だったのは空気が澄んでいて、清潔な環境だったことです。今でもそのことを懐かしく思っています。そして、日本の文化や礼儀、おもてなしはとても素晴らしいものでした。

私は日本人の災害への対処能力にも驚かされました。日本に住む人の力がいかに強いものかに感心しました。そして、ある言葉が思い浮かびました。「あなたは傷ついた分だけ強くなれる」という言葉です。

私たちネパール人は 2015 年に大震災を経験しましたが、日本人と同じように強くなれるよう可能な努力を行い、強い意志の力を築き上げたいと願っています。そのようなことに気付くこと、そして、日本が多くのことを達成し行っていることを可能な限り発信することによって可能になると思います。

(4)

このプログラムは防災について学ぶ非常に良い機会でしたし、様々な講義から災害リスクの軽減について知ることができました。私たちは、日本がどのように今後の防災について対策をしているか、これまでの災害ではどのような対策をとってきたのか学ぶことができました。

そこでは、災害から引き起こされる PTSD や精神的な問題も考える必要があることを知りました。今回、私たちは実際に津波の被害を受けた方から話を聞くことができました。

私はこのプログラムから学んだことを、友人や家族、クラスメイトそして地域の人たちと共有したいと思います。共有することで自然災害への理解へとつながるだけでなく、災害の影響を最小限に抑え今後の災害対策の手助けになるからです。

(5)

来日前は、日本について周囲から聞いたり、インターネットで調べたりしていました。日本は先進国で、欲しい物はすべて揃っている所だと想像していました。また、人で溢れかえっていて、騒音がひどいのだろうと思っていました。

しかし、日本に来ると、平和な雰囲気、清潔な町だという印象を持ちました。私の国は南アジアの開発途上国の一つですが、日本がこんなにも親しみやすく、防災計画が発展しているとは私の想像を大きく超えたものでした。

内閣府訪問の際には、未来の災害地図について講義を受け、その内容に非常に驚かされました。私は、日本から学び、ネパールに取り入れなければならない多くのことを知ることができました。母国は災害が発生しやすい地域であることから、今後の災害被害対策に備える必要があります。今回の滞在は個人的に非常に実り多いものでした。

(6)

日本人々、そして文化は、とても素敵です。また、今まで会った人のうちで最も親切な人々でした。私は、日本の現代的な部分と文化的な品位の融合を目にすることができました。日本人々が、自らの文化と西欧の発展的な要素を混ぜ合わせてきたことは、世界中の人々が賞賛し、学ぶべき点であると思います。日本は道徳観、価値、文化を維持することによって、他の国々の模範となるでしょう。応援しています。

「日中植林・植樹国際連帯事業」
ネパール青少年招へい事業(大学院生) 日程

日時			活動内容	訪問地
1/15	日	午後	-	
		午後	羽田空港着	
1/16	月	午前	オリエンテーション	東京
		午後	江戸東京博物館参観、明治神宮参拝	
1/17	火	午前	【講義①】 「東京の自然災害・人的災害への高リスクへの対処」(内閣府)	東京
		午後	【講義②】 「防災アプリ開発について」(東京大学大学院情報学環)	
1/18	水	午前	【講義③】 「阪神大震災から学ぶ」(NGOまちコミュニケーション)	東京
		午後	【講義④】 「地域防災計画に基づく震災復興全般」 (東京都総務局総合防災部)	
1/19	木	午前	「3.11震災後の首相官邸でのグローバルコミュニケーション活動」	東京／宮城
		午後	宮城へ移動	
1/20	金	午前	【復興支援活動事例研究①】 「被災者生活再建支援への取り組み」 (宮城県国際経済・交流課)	宮城
		午後	【復興支援活動事例研究②】 「震災に起因する健康問題等」 (公益社団法人 宮城県精神保健福祉協会 心のケアセンター)	
1/21	土	午前	東日本大震災 被災地視察 (石巻市語り部ガイド)	宮城
		午後	千年希望の丘での植樹	
1/22	日	午前	東京へ移動	宮城／東京
		午後	報告会	
1/23	月	午前	「日本史講義」(史文社)	東京
		午後	茶道体験	
1/24	火	午前	羽田空港より帰国	